

まず、自分が滞在してみる マチにかかわる広場の極意

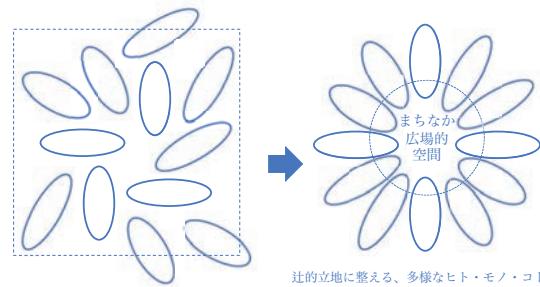
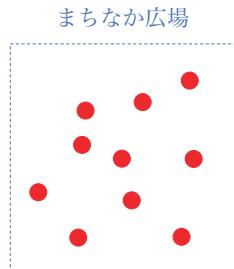
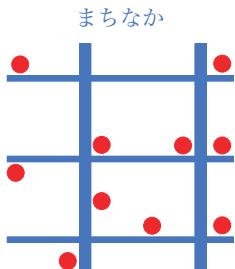
広場ニスト／ひと・ネットワーククリエイター 山下裕子



全国まちなか広場研究会より転載



稼働率 100 % の公共空間はできる！



辻的立地に整える、多様なヒト・モノ・コトが集まる
まちなか広場的空间を、まず地域の核の居場所にする

最も強い者が生き残るのではなく、
最も賢い者が生き延びるのでもない。
唯一、生き残るのは変化できる者である。

チャールズ・ダーウィン

虚はすべてを容れるが故に万能であり
虚においてのみ運動が可能になる。

岡倉天心「茶の本」より

モノ
コト
トキ
(空間)

まちなか広場を
地域社会のいま
うつしだす鏡に

清掃と警備だけが

活動量1 活動量2
× = ×
人口1 人口1／2

ひと（他者）が居る

人通り・通行量・ミルミラレル・ひとの目・安全

その場を使っている人がいて
はじめて、「場所」にみえる



ひと（他者）が いつも居る場所

期待感・無目的ででも出かけたくなる

わざわざ、行かない
(わざわざ、行きたい)

出かけると 何か出会う
出かけるが 楽しくなる
出かけると 健康になる

人が居る (出かけて)
商いが、始まる
人が居る → 団子屋ができる
(民間の得意分野)
昔は、街道・参道
今は、病院・施設

通路 \leq 広場 = 市場
人通りがあるところを整える
編みなおして「要」をつくる

Tori (広場=市場)

- ・地食地産 (買える場&売れる場という認知)
- ・市場調査 (マーケティング)
- ・あらたな市場をつくる (得意・販売機会)



出典：「モリノ」プロジェクト資料



出典：「モヨリノ」プロジェクト資料



自己実現・主体性・自治への心持ち



朝市の魅力、はじまりの朝
でかける”用”をつくる

必要に応える働き、役に立つ、使い道、用事、用便、用途

“地域内”経済循環促進のため

(広場に渗む開口部設え、渗む業種の店舗低賃料、隣接事業の法人税の流れ)



経済循環促進のため

居場所

×

移動性

モビリティ
&
出かけたい

待ち合いの場所

待ち合せの場所

地域の真ん中の広場的空间を、多種多様な人が利用可能なフィールド（環境×仕組）に整える

地域性 × 個性 = 多様性

多様であること
自然であること
だから安心する

(移動制約者である) シルバー世代や未就学児の親子の行動範囲内に、まちなか広場的空间がある
→ 毎日、違う光景 → 楽しい場所
→ 子どもが居る → シルバー世代が眺める
→ 多世代の「でかける機会」を創出

公共空間 = 地域そのもの
弱者が滞留できる場所だからこそ、行政の関わりが重要
場の空気感が地域の安全性を培い新しい価値を創造する

曖昧多義の要素を
共存・成立させる
ことができる空間

混在の美学

混在する風景への理解
混在するからうまれる
混在だからこそ面白い

「まちなか」

人口規模に関係なく
地域の日常について問い合わせられた一年
文化とは、自然とどうつきあうかということ
そして、自分がいる自然のほうが楽しい

座りやすく、居心地が良い → ひとのいる景色



↑
地域内経済活動のある景色 ← ひとを惹きつける

これを常態化するには？？？

賑わい = 滞在人数 × 滞在時間

土日2日間／平日5日間 平日の日中に広場に滞在できる人は？

オトナが、堂々と
ぼんやり、できる

居ること事態を楽しめる場の数

場に居ること事態を楽しむ人数



まちなか広場　　通過交通 → 眺め → 滞留時間

居心地とは、そこにいるときのこころもち

通過交通はある ・・・ 滞留時間はナシ（現状）

人が居る光景を常態化するためには
眺めたくなる状態を常態化すること

（日陰・風・草花・子ども・若者・催し物等）

催事の実施は目的ではなく手段、趣味嗜好等の横のつながりを育成する機会創出や市場の活性化等

広場を利用することで
全員が地元の主体者に

開かれた場での
共同作業・定例会の価値
(日程調整はコスト)

美化活動・交流会・井戸端でのおしゃべり
言語を用いないコミュニケーション、広報せども、自分の予定を中心に

よそものは（関係人口）
勇気をつれてくる存在。

19世紀、旅人とは
自由な創造を行う芸術家であった。

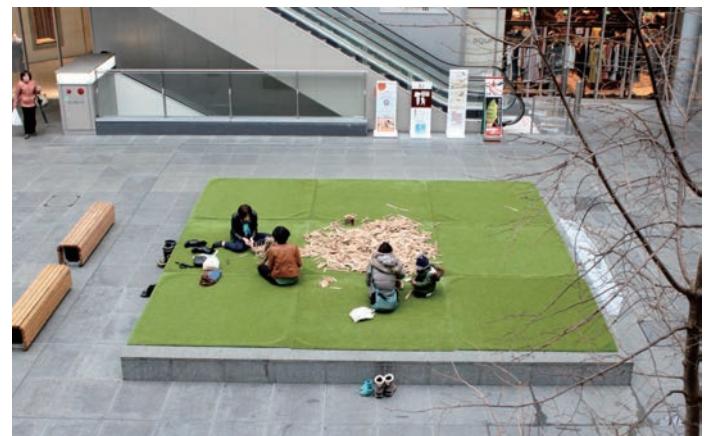
ひらかれた 空気・空間・間柄

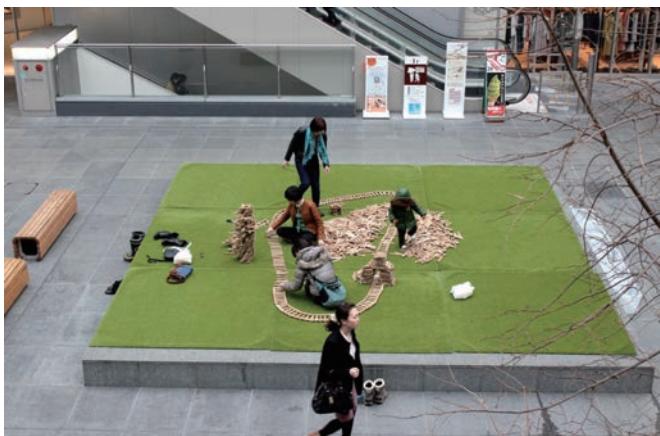
ネットワーク型
サードプレイス

出会う・感じる・支え合う
パワーになる心のつながり
実存隣人とのつながりの質

- × 課題の解決
- 楽しいから、はじめる

時間を過ごす。顔なじみになる。
近くに居る人に親しみを感じる。





広場で（のみ）出会うひと

約束しなくとも、名前を知っても知らないでも
なんとなく気のあう、顔見知りに、出会える場所

おたがいさまの芽生え
思いやりの気持ちを育む
あたらしい関係性を誘発

お互いが、お互いの楽しみになれる



ひとの姿が、経済活動を起こす（街道・参道）



眺める対象があると、滞留時間は伸びる

自己 ⇌ 他者
ミルミラレル関係性

相互作用

お互いの存在自体が、お互いの楽しみを創出できる

私の「ふるまい」が
共用空間に影響する

領域感をつくる 帰属意識の向上

(自治の基礎)

はたらく

仕事

自然（風）の中に、身をおく
屋外空間（オープンエア）

室内だけで、生きていく現代
心ゆたかに暮らす・心身の維持
季節感・地元の恵みを享受する

無目的な時に
期待をもてる

(あそこに行けば、何かに会える、誰かに会える)

日常的に家から出る
日常生活には習慣性
出会い・チューニング・関係性

出かける
 ↓
 居る 空間・時間を共有
 (眺めあえる距離感を確立)
 ↓ ↓
 話をする 話をしない
 ↓ ↓
 話をするしないに関わらず、お互いの存在を意識
 ↓
 多様なコミュニケーションを創発する

きく → きける間柄 ・ きけるタイミング
 訊く (問う)
 尋く (あきらかにするために人にあたる)
 聞く (音を感じとる)
 聴く (注意して耳に入れる)
 効く (効果や働きが現れる)
 利く (役立つ)

地元らしさを花ひらく それは、あたしい源泉

地元文化（地力の楽しみ方）の開拓し、風を吹かせる試み

地元の
技術・思想・習慣を考える。

広場を、身体性を伴ったメディアにする

媒体=一方から他方へ伝えるためのなかだちとなるもの、自分が居て他者が居て、隣人の存在を認知して初めて

地形から、見直すべき時期

“うっかり千年” ”おかえり久留米”

古代から営みが続くゆたかな地域、ゆったりした人たち
八戸藩・富山藩・諏訪藩・松江藩・播磨藩・久留米藩

関係人口

静岡県の事例

ひらかれた広場で
オープンな関係性
機敏で寛容な応対



これまで計画的

地域共同体的関係性

同じ地域に居住して利害を共にし、政治・経済・風俗などにおいて
深く結びついている人々の集まり（社会）のこと